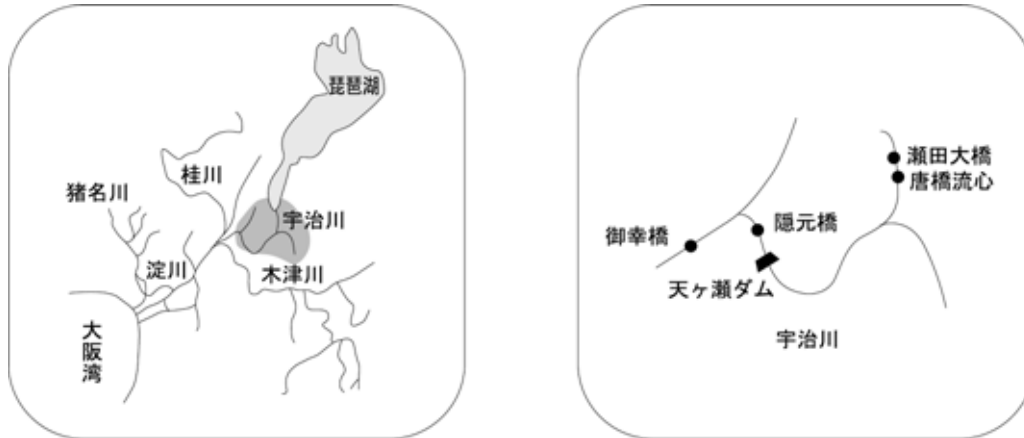


3. 宇治川

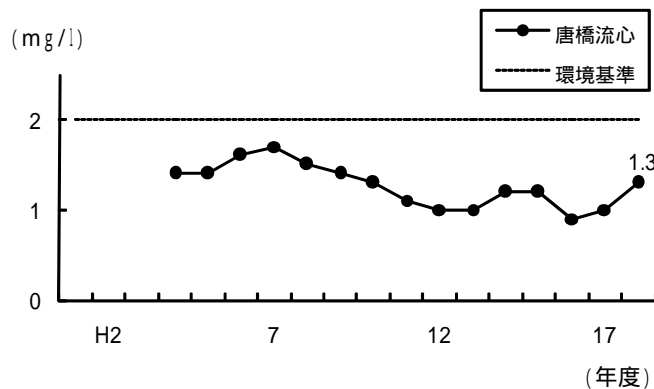
宇治川は昭和50年代に水質が悪化したが、上流は急速に改善され、下流は昭和60年代に徐々に改善されている。その後は横ばい状態にあり、上・下流とも環境基準を達成しつつきている。



(1) 瀬田川

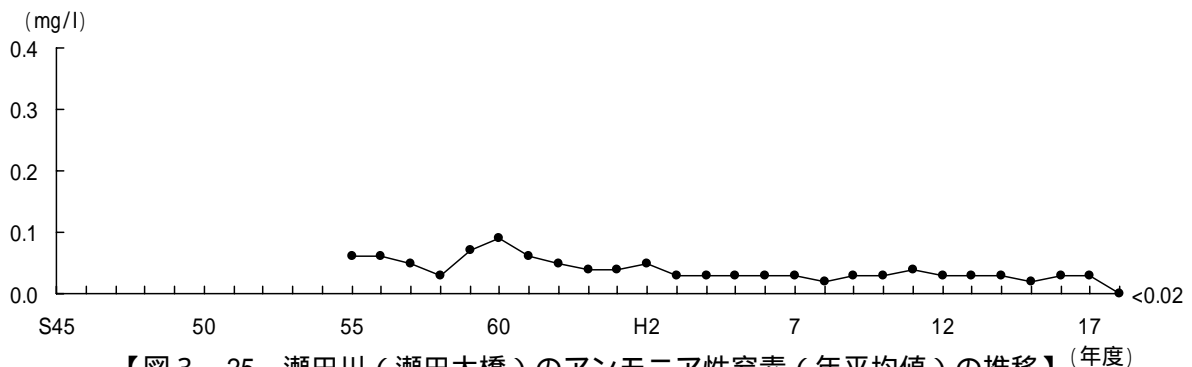
宇治川上流に位置する瀬田川は琵琶湖南湖の水質の影響を強く受ける地点である。BOD(75%値)は平成4年度以降1.0~1.5mg/lと低い値で推移してきており、平成18年度は1.3mg/lと環境基準値(2.0mg/l)を下回っている。

アンモニア性窒素(年平均値)も昭和62年度以降0.03~0.05mg/lの低い値で推移しており、平成18年度は報告下限値(0.02mg/l)未満であった。



【図3 - 24 瀬田川（唐橋流心）のBOD（75%値）の推移】

滋賀県環境白書より作成 詳細は資料3 - 10を参照



【図3 - 25 瀬田川（瀬田大橋）のアンモニア性窒素（年平均値）の推移】

大阪府「水質試験成績並びに調査報告」より作成 詳細は資料3 - 11を参照

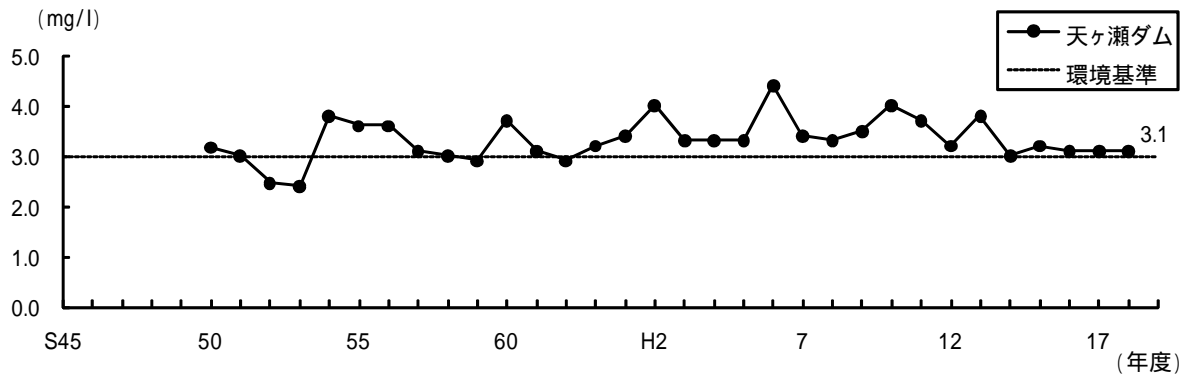
(2) 天ヶ瀬ダム

天ヶ瀬ダムは、琵琶湖の水質の影響を受ける地点である。

COD(75%値)は昭和54年度ごろから高くなり、その後はおおよそ3.0~4.0mg/lで推移している。平成18年度は3.1mg/lと環境基準を上回った。

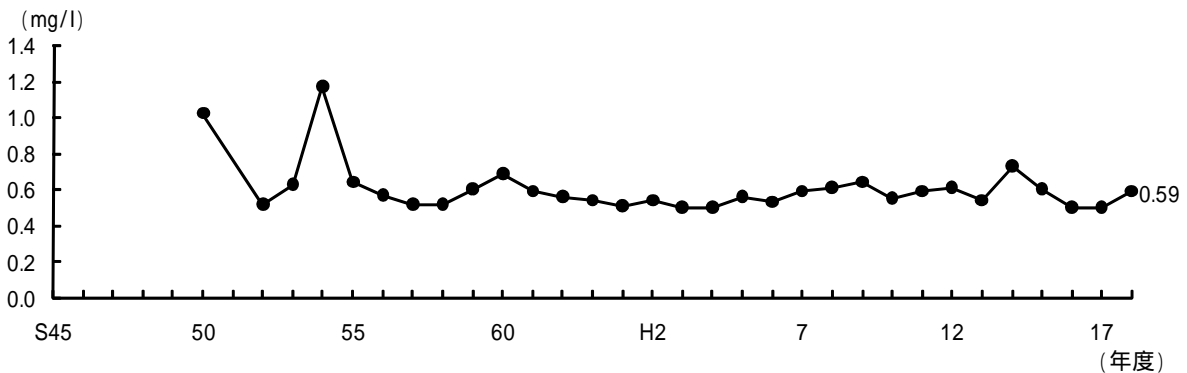
全窒素(年平均値)は昭和50年度に1.02mg/l、昭和54年度に1.17mg/lと1mg/lを超えたが、その後は横ばいで推移している。平成18年度は0.59mg/lであった。

全りん(年平均値)は昭和52年度に0.116mg/lと高い値を示したが、昭和53年度以降横ばいで推移しており、平成18年度は0.022mg/lであった。



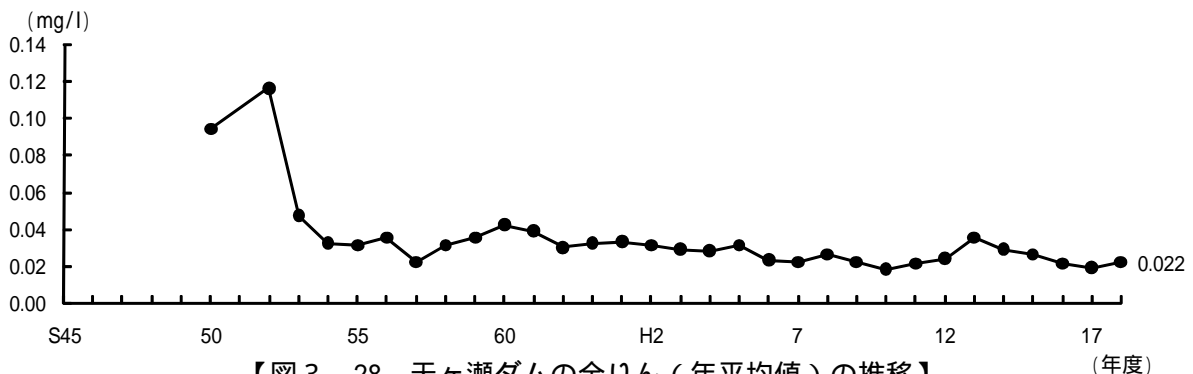
【図3-26 天ヶ瀬ダムのCOD(75%値)の推移】

建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9~18年度については近畿地方整備局調べ 詳細は資料3-7を参照



【図3-27 天ヶ瀬ダムの全窒素(年平均値)の推移】

建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9~18年度については近畿地方整備局調べ 詳細は資料3-8を参照

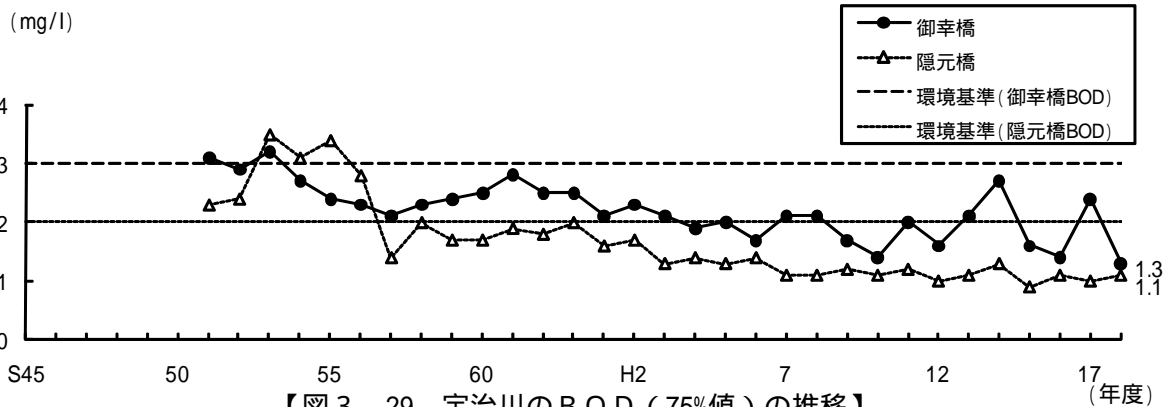


【図3-28 天ヶ瀬ダムの全りん(年平均値)の推移】

(3) 宇治川

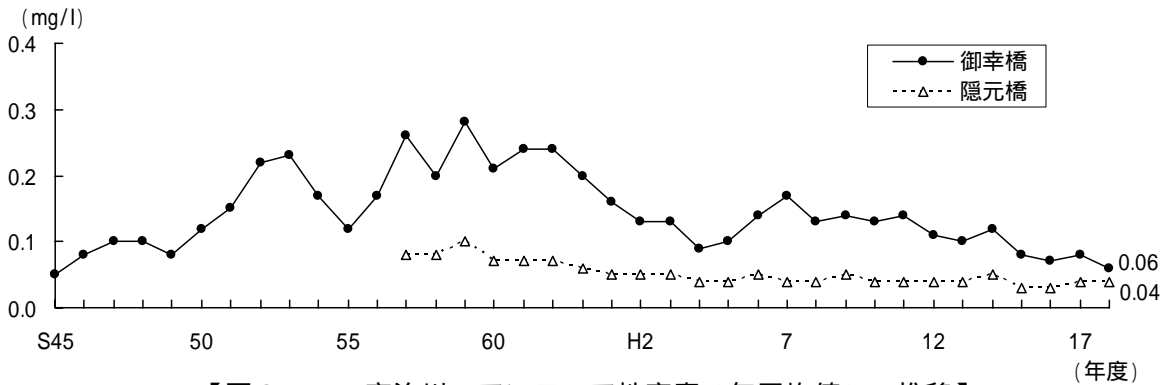
BOD(75%値)は御幸橋で昭和50年度以降減少傾向を示し、平成18年度は1.3mg/lであった。隠元橋では昭和56年度までその下流の御幸橋より高い値を示したが、その後急速に改善され、平成18年度は1.1mg/lであった。両地点ともに環境基準値を下回っている。

アンモニア性窒素(年平均値)は御幸橋で昭和59年度に0.28mg/lとなり、昭和45年度の約6倍もの値を示したが、下水道の整備等ともなって、それ以降急速に改善され、平成4年度は0.09mg/lとなった。その後微増したが、平成7年度からは減少傾向にあり、平成18年度は0.06mg/lであった。隠元橋では昭和57年度以降は0.10mg/l以下と良好な水質を示しており、さらにその後の改善により、平成18年度は0.04mg/lであった。



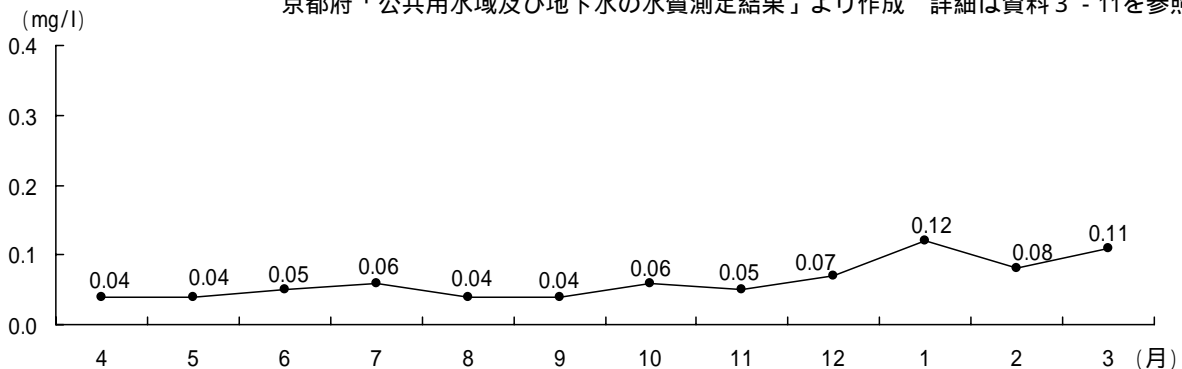
【図3 - 29 宇治川のBOD(75%値)の推移】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3 - 10を参照



【図3 - 30 宇治川のアンモニア性窒素(年平均値)の推移】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3 - 11を参照



【図3 - 31 宇治川(御幸橋)のアンモニア性窒素(平均値)の経月変化(平成18年度)】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成